

## 平成12年度試験研究成果

区分	普及	題名	品種 小麦 アミロース含量が低く製めん適性に優れる「東北206号」			
<p>〔要約〕小麦「東北206号」は早生・短稈・多収で、外観品質が優れる。また、低アミロース含量で、製めん適性が高いことから、岩手県における新規用途小麦の特産的栽培に寄与できる品種である。</p>						
キーワード	低アミロース小麦	「東北206号」	製めん適性	園芸畑作部 県北研究所	野菜畑作研究室 やませ利用研究室	

### 1. 背景とねらい

本県の小麦作は、水田農業の活性化対策及び麦の民間流通移行に伴い、以前にも増してその真価が問われている。一方、生産現場からは早生・多収品種の育成が、実需者からは加工適性の面での高品質化が強く要望されている。そこで、栽培特性に加えて、品質評価を重視しながら特色ある品種の導入を検討してきた。

### 2. 技術の内容

#### (1) 来歴

「東北206号」は昭和63年に東北農業試験場において、早生、低アミロースでめんの食感が優れた「関東107号」を母とし、耐寒雪性、赤さび病抵抗性で製めん適性が優れた「チホクコムギ」を父として人工交配を行い、雑種第3代に半数体育種法を経過してから系統選抜を行い、以降系統育種法により選抜・固定を図ってきたものである。

#### (2) 特性概要

- ア 播性程度は で、成熟期は県南部で「ナンブコムギ」より1日遅いが、県央・県北部では2日早い。
- イ 稈長は「ナンブコムギ」より短く、耐倒伏性は強い。
- ウ 収量性は「ナンブコムギ」より多収である。
- エ 千粒重は「ナンブコムギ」より小さいが、リットル重は同程度ないしやや大きく、外観品質は優れる(以上、表1)。
- オ 耐寒雪性は「やや強」であるが、「ナンブコムギ」よりは弱い。
- カ 穂発芽性は「難」である。
- キ うどんこ病抵抗性は「ナンブコムギ」より弱い(以上、表2)。
- ク 製粉性は「ナンブコムギ」より優れる。
- ケ 粉の粗蛋白含量は「ナンブコムギ」より低い。
- コ アミロース含量は「ナンブコムギ」より低い。
- サ アミログラム最高粘度は「ナンブコムギ」より高く、ブレイクダウンも大きい。
- シ ゆでめんの粘弾性に優れ、官能評点が高い(以上、表3)。

### 3. 普及上の留意事項

- (1) 栽培法全般については、当面「ナンブコムギ」に準じるものとするが、現在検討中である。
- (2) 品質を高めるため、減数分裂期以降の後期追肥が有効である。

### 4. 技術の適応地帯

根雪期間 100日以下の県下全域  
普及見込面積 200ha

### 5. 当該事項に係る試験研究課題

- [畑作物1]-1-(1)-ア 麦類の奨励品種決定調査
- [畑作物1]-1-(2)-ア 新形質品種の特性を活かした高位安定栽培技術の確立

### 6. 参考文献・資料

- (1) 平成8年度 畑作に関する試験成績概要書 県立農業試験場
- (2) 平成8年度 試験成績概要書 県立農業試験場県北分場
- (3) 平成9～11年度 畑作関係試験成績書 農業研究センター野菜畑作研究室
- (4) 平成9～11年度 試験成績書 農業研究センター県北農業研究所
- (5) 平成12年度 畑作関係試験成績書(未定稿) 農業研究センター野菜畑作研究室
- (6) 平成12年度 試験成績書(未定稿) 農業研究センター県北農業研究所
- (7) 小麦新品種決定に関する参考成績書(平成12年9月)  
農林水産省東北農業試験場作物開発部麦育種研究室

7. 試験成績の概要

表1 東北206号の生育・収量・外観品質(平成9~12年産)

試験地	北上・農研センター		軽米・東北農業研究所		盛岡・東北農試(育成地)
	東北206号	ナンブコムギ	東北206号	ナンブコムギ	東北206号
播性の程度	-	-	-	-	-
出穂期	5月15日	5月13日	5月19日	5月19日	5月21日
成熟期	6月30日	6月29日	7月5日	7月7日	7月4日
稈長(cm)	84	98	73	76	83
穂長(cm)	8.0	10.0	7.0	8.6	8.6
穂数(本/m <sup>2</sup> )	549	490	442	412	382
子実収量(kg/a)	50.7	43.1	42.4	31.5	38.8
対標準比率(%)	120	100	127	100	-
リットル重(g)	795	783	765	766	782
千粒重(g)	37.2	45.2	34.7	40.4	35.4
原粒の見かけの品質	上下	中上	上下	中上	上下
検査等級	1等	1等~2等	-	-	-

表2 東北206号の諸障害に関する特性(平成9~12年産)

試験地	北上・農研センター		軽米・東北農業研究所		盛岡・東北農試(育成地)			
	東北206号	ナンブコムギ	東北206号	ナンブコムギ	東北206号	ナンブコムギ	東北206号	
発	寒雪害	-	-	1.0	0.8	耐寒雪性	やや強	強
	倒伏	1.3	1.8	0.5	0.8	耐倒伏性	やや強	弱
生	穂発芽	0.0	0.0	0.0	0.3	穂発芽性	難	難
	赤さび病	0.5	0.5	0.3	0.8	赤さび病抵抗性	強	やや弱
程	うどんこ病	0.0	0.0	1.0	0.5	うどんこ病抵抗性	やや弱	やや強
	赤かび病	0.8	0.8	0.3	0.0	赤かび病抵抗性	中	やや強
度	縞萎縮病	0.0	0.0	0.3	2.5	縞萎縮病抵抗性	強	弱

注1) 発生程度0(無)~5(甚)

注2) 育成地の評価は、育成地における平成5~11年度の成績による

表3 東北206号の加工適性(平成9~11年産)

試験地	北上・農研センター		軽米・東北農業研究所		盛岡・東北農試(育成地)
	東北206号	ナンブコムギ	東北206号	ナンブコムギ	東北206号
製粉歩留(%)	69.7	65.8	69.5	65.1	70.4
ミリングスコア(%)	79.8	73.1	80.9	74.0	81.1
60%粉粗蛋白含量	9.2	12.3	8.2	10.3	11.9
60%粉灰分含量	0.46	0.53	0.42	0.48	0.46
アミロース含量(%)	21.9	25.1	22.4	25.6	22.1
粉の白さ(%)	51.8	50.1	52.1	50.5	49.1
粉の明るさ(%)	66.1	65.8	67.4	67.0	64.0
粉の色づき	0.106	0.118	0.112	0.122	0.115
アミログラム最高粘度(BU)	1160	882	1226	1016	1034
ブレイクダウン(BU)	530	326	564	338	467
ゆでめんの色(評点)	13.1	12.5	14.9	14.9	14.2
ゆでめんの粘弾性(評点)	19.5	16.4	20.7	17.7	21.9
ゆでめんの評点	73.5	68.8	78.8	72.8	79.1